令和4年度 学校自己評価書 (川南町立東小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価 項目 総合	結果の考察・分析および改善策等
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進				
1	家庭教育支援の充実 ・家庭教育学級、学級懇談会の活用 ・「早寝、早起き、朝ごはん」等生活リズム定着への啓発 ・保護者相談、個別面談の充実	・学級役員との相談を通して学級懇談会の内容を工夫し、学級通信、HP等での啓発を継続する。 ・メディア依存の解消も含め、生活リズム定着と実践に向け、家庭教育学級や学校保健委員会の取組を工夫する。 ・関係機関との連携を図るとともに、傾聴を基に保護者の願いの把握に努める。	3.3 3.0 3.4	・家庭教育学級では、家庭教育サポートプログラムを活用して親子の触れ合い活動や人権教育を行うなど、計画的に実施することができた。 ・9月の参観日は、中止になったが6月の参観日、7月の個別面談、11月のオープンスクール等における学級懇談で学級の児童の様子を伝えることができた。 ・本年度は、「メディア利用」をテーマに学校保健委員会で6月の講演会を行ったり各家庭で夏休みに取り組んでもらったりした。共通実践の機会を設定したことで取り組みやすさにつながった一方で家庭への周知が足りず、なかなか取り組みなかった家庭も多かった。 ・児童への啓発活動の効果もあり、児童アンケートの「早寝・早起き・メディアの時間が守られているか」の項目では、「守られている」と回答した児童が増えていよ傾向にある。(R3:49%⇒R4:54%) ・個別面談が4月から7月へ変更となったが、全児童の保護者と面談が実施できた。1学期の様子と学習状況等のデータ資料を基に児童の学習や学校生活での様子を詳しく伝えることができた。 ・その他個別の面談の要望があれば各学年の担任が保護者と連絡を取り合いながら、実施できた。
	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ・保護者、地域と一体となった挨拶運動や読み聞かせ活動の推進 ・コミュニティ・スクール協議を基にした協働事業の推進	・学校運営協議会委員等との連携を図り、挨拶運動や避難訓練実施への協力体制を構築する。 ・公民館活動(清掃活動等)へ積極的に参加する。 ・地域と連携した読み聞かせ活動を継続し家庭への啓発を図る。 ※金鈴学園、東保育園との連携	3.2 3.2 2.8 3.5	・見守り隊の方々と対面式をZoomで行い、児童に見守り隊の方々の顔を覚えてもらった。毎日の挨拶運動や見守り活動を継続して行ってもらっている。 ・児童アンケートの「友だちからあいさつをしてもらえますか」の項目では、「よくできている」と回答した児童が昨年度より増加していた。(R3:63%⇒R4:76%)少しづつではあるが、自ら進んであいさつする児童が増えている。 ・川南交番の協力をいただき、児童の下校指導を行っていただいた。また、移動交番を活用して児童に対して移動交番に関する周知や交通安全指導も行っていただいた。 ・地域の方と協力した浪掛と伊倉の海岸清掃を7月に計画していたが、悪天候のため実施することができなかった。12月の花いっぱい活動には、児童の参加の呼びかけを行い、6年生を中心にたくさんの児童が参加して地域の清掃活動や花植え活動を行うことができた。 ・保護者アンケートの「コミュニティ・スクールとして学校と地域が協力して子どもたちを育てようとしているか」の項目において、「よくできている」と回答した保護者が昨年度より増えた。(R3:23%⇒R4:40%)参観日やHP等による周知活動を行ってきた成果だと考えられる。今後も様々な場面で周知を図ってきたい。 ・海岸や地域清掃等の活動を行う際には、町まわり課へ活動計画書を提出すればゴミ袋等の提供をしてもらえるので連絡してほしい。 ・金鈴学園との情報交換会を7月に実施した。小学校と協力して児童の成長を見守っていくことを確認した。2月に2回目を行う予定である。 ・東保育園をはじめとする保育園や幼稚園の来年度入予定児童に連絡をし、秋季運動会のかげこに参加できるように予定している。 ・本年度も継続して読み聞かせボランティアの方々に協力していただき読み聞かせを実施している。 ・1/6(金)に東保育園、川南幼稚園との幼児小連携会議を行い、園児等の情報交換や幼児小連携の在り方について協議することができた。
	読書活動を推進する。 ・年間貸出冊数14,000冊以上の継続 ・読書に親しむ時間の確保	・毎週水曜日に朝読書の時間を設定し、継続する。 ・地域、保護者との連携による読み聞かせ(月1回)を推進する。	3.3 3.2 3.5	・図書主任と町図書事務との意思疎通や情報共有が不十分だったため、図書購入や多読賞の作成などの作業に遅れが生じた。 ・12月末の段階で図書の貸出し冊数が8,469冊となった。読書週間中に図書祭を行った10月の貸出冊数が増えた。 ・児童アンケートの「図書の本を1か月の目標冊数借りていますか」の項目では、昨年度よりよく借りている児童が増えた。(R3:46%⇒R4:62%) ・朝登校したら読書を行うよう指導したことで、読書に親しむ時間が増えた。 ・読書感想文・感想画に積極的に取り組んで、様々な本に触れる機会や豊かな表現力の育成に取り組めた。 ・5月から読み聞かせボランティアの方々に読み聞かせを行っていただいている。読み聞かせをしてくださるボランティアの方が年々減ってきているので、定期的に読み聞かせボランティア募集等の協力をお願いした。
2	豊かな学力を育む教育を推進する。 ・学ぶ意欲の向上 ・基礎的学力の定着(CRTにおける全学年全国平均以上) ・授業等におけるICT機器の積極的活用	・ユニバーサルデザインを活用した、児童が見通し易い授業を構築する。 ・認知機能トレーニング(コグトレ)の実施。 ・ICT機器活用を手立てとした学力向上につながる授業改善を進め、指導力の向上を目指す。※ICT機器、アナログ教材双方の利点を生かす。	2.8 3.1 3.3 3.3	・児童アンケートの「一生懸命勉強している」の項目で「よくできている」と回答した児童が昨年度より上昇した。(R3:51%⇒R4:64%)また、保護者アンケートの「丁寧な指導をされている」の項目で「よくできている」と回答した保護者も増えている。(R3:28%⇒R4:45%)本校の教職員の学習指導等に対する理解を深めていただいている。 ・主題研究では、RST結果の細分化まで行うことができた。今後、宮崎大学の分析結果を基に読解力向上に向けた授業改善を行っていく予定である。また、学級の児童の実態に応じた重点目標に沿って学習指導をしていただいている。 ・年度初めにコグトレを継続する提案とプリントの整備を行い、認知機能向上のために、昨年度に引き続きコグトレに取り組んでいる。 ・夏季研修でコグトレの問題のさせ方について共通理解を図り、児童が取り組みやすいように問題プリント補充を行った。 ・全国学力・学習状況調査の結果が全国正答率平均よりかなり低かった。(国語-13.7、算数-19.5、理科-16.9) ・みやざき学力学習状況調査は、2月下旬公開予定。 ・R4年2月実施のCRT検査結果(国語:4学年全国比以下、算数:4学年全国比以下)※R5CRT結果については、2月末に分かる予定。 ・ICT機器を積極的に活用して各学年で指導している。ICTに関する専門家に講師を依頼しチームズフォームの使い方について研修を行った。今後の授業活用の参考にもなった。
	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・人権教育(命を大切に育てる教育)に関する参観授業の設定 ・児童縦割り班活動の継続 ・教育相談の充実(友達に優しく接する児童の割合95%以上)	・6月参観日に人権に関する授業を実施し、思いやりの心、自他の命を大切に育てる心を育てるとともに、保護者への啓発を図る。 ・ピア・サポートの視点で教育活動の工夫・改善を図る。 ・児童縦割り班によるボランティア活動や清掃活動等を実施する。 ・教育相談アンケートを実施し、傾聴を基に月1回の教育相談を実施する。また、ハートフル委員会、ケース会議等を通して児童の様子を共有し支援にあたる。	3.5 3.5 3.6 3.7	・6月の参観日に人権に関する授業を全学年で行った。保護者の感想は、「良かった」という感想ばかりであったので、次年度も継続して行いたい。 ・ピア・サポートの事業である「いのちの教育」を県動物愛護センターの方を招いて、1・2年生に命の大切さについてお話をいただいた。 ・本年度は初年度ということもあり、ピア・サポートについて「共通理解をする」ことを目標に県人権同和課から講師をいただいた。7月に研修を行った。 ・4年生は、町社会福祉協議会の方に車いす体験やアイマスク体験の授業をしていただき、障がい者の立場にたったサポートの仕方について体験を通して学ぶことができた。また、町内に住んでいる障がい者との交流を通して障がい者に対する理解や思いやりをもつて接することの大切さを学ぶことができた。 ・本年度より、毎週水曜日に清掃縦割り班で外掃除を行っている。異学年の交流活動の機会を増やすことができ、高学年がリーダーシップを発揮している。 ・教育相談アンケートや教育相談及び月1回のハートフル委員会を計画的に実施し、児童の悩みを把握した。本年度は、いじめられたと相談した児童が2名いたが、すべて解消している。 ・学級になじめず校内を徘徊する児童や不登校傾向児童のある児童等については、ケース会議を実施し関係職員で対応策を考え、全職員で対応策に沿った共通指導を行っている。また、保護者への協力もお願いしている。 ・児童アンケートの「友だちにやさしく接していますか」の項目で「やさしくしている」と回答した児童が昨年度より増えた。(R3:63%⇒R4:80%)目標までは届いていないが、「思いやりの心」などの児童会活動の取組や担任による学級経営指導の効果が出ていると思われる。 ・児童アンケートの「先生は困った時に相談のつてくれますか」の項目では、昨年度より「相談のつてくれる」が増えた。(R3:53%⇒R4:64%)児童も安心して学校生活を送れるようになってきている。 ・中部教育事務所から派遣されたスクールカウンセラーに児童の友達関係に関することや進学に関すること等についてカウンセリングをしていただいた。
	特別支援教育を推進する。 ・個に応じた指導・支援の充実 ・共生社会をめざした人権感覚の醸成 ・児童の自己肯定感の向上	・特支コーディネーターを中心に体制を整備するとともに、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成を通して指導・支援にあたる。 ・合理的配慮への保護者の理解を得るとともに、保護者、職員間での支援の方向性を共有し、連携を通して児童の自己肯定感を高める。 ・外部専門機関をケースに応じて活用するとともに保護者相談を継続する。	3.45 3.45 3.5 3.45	・4月に個別の教育支援計画・個別の指導計画作成についての共通理解を全職員で行った。(9月:前期分の評価、10月:後期分の作成)作成にあたっては、7月の個別面談で保護者と合理的配慮について合意形成を行った。 ・月1回の特別支援教育委員会、気になる児童の実態について共通理解を行い、支援の在り方を協議し、児童の自己肯定感を高めるようにした。 ・エリアコーディネーターやはぐはぐ子ども村の渡邊さん等に児童観察を依頼し、授業での支援の在り方についてのアドバイスをもらい、児童理解に努めた。 ・特支コーディネーター(るびなす支援学校)を活用し、各検査をしていただき、保護者・学校へのフィードバックで児童のより良い就学形態について協議をした。 ・児童や保護者の困り感に各担任が児童や保護者と面談するとともに、特別支援コーディネーターと連携して、各種検査の実施や関係機関等の受診を適切に行うことができた。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・地域人材を活用したふるさと学習の推進 ・地域行事への積極的な参加	・町地域学校協働本部事業を活用し、地域人材を交えた学習を積極的に進め、地域人材を通して川南のよさを。 ・町歌を歌う場を教育活動の中に計画的に位置付けるとともに、普段の授業の中に「川南では…」という視点を持ち、ふるさと川南への理解を深める。 ・連携を基に公民館活動等への参加を呼びかける。	3.5 3.2 2.8	・児童アンケートの「川南町の学習をしてくれましたか」の項目で「よくしてくれた」と回答した児童が昨年度より増えた。(R3:29%⇒R4:49%)先生方が積極的にふるさと学習に取り組んでいる結果だと思われる。 ・オープンスクールをはじめ、11月以降にキャリア教育、家庭科学習、昔の遊び、タグラグビーで地域人材を活用した学習を行った。 ・6年理科学習では地域学校協働推進員に協力をいただき、地域の地層見学を行い学習を深めることができた。 ・地域に和楽器(尺八)を指導している方がいるので、音楽の学習等でぜひ活用を図っていただきたい。 ・地域女性部の活動で、ランチョンマットづくりやしめ縄づくり等があるので児童が参加する計画を立ててみるのもよいのではないかと。 ・他校では、地域連携年間計画表を作成して実践しているのが計画的に人材確保がしやすい。東小学校でも年間計画を作っただけでも学校協働活動推進員としてもありがたい。 ・春の遠足を兼ねたふるさと学習を5年生以上の児童で実施した。町内の施設などを見学することで郷土を学ぶ体験学習となった。 ・12/7(水)に6年の総合的な学習の時間を活用して、保護者や地域の方に6年生が呼びかけて一緒に海岸清掃を行った。 ・学校運営協議会委員の協力をいただきながら、本年度も道路清掃等の地域貢献活動を6年生を中心に取り組む予定である。 ・12月の花いっぱい活動等公民館活動に児童の参加を呼びかける予定。 ・7月の海岸清掃、9月の敬老会への参加が悪天候やコロナ感染拡大で実施できなかった。
	キャリア教育を推進する。 ・キャリア教育の視点を生かした授業実践 ・地域の方との連携による学習活動の実施	・地域人材の授業参加を進め、その人の仕事観、生き方を学ぶ機会を設ける。学びを基に考えを深めさせる。 ・キャリア教育年間指導計画を見直し、キャリア教育の充実を図る。	3.5 3.3 3.3	・保護者や地域の方、地域企業等様々な方々に依頼し、それぞれのお仕事について上学年で話をいただいた。(農業、薬剤師、臨床心理士、警察官、保育士、町職員など) ・3年生は体育(タグラグビー)や総合の学習の時間(湯島鳥、サンム果汁等)に地域企業を活用し、学びを深める学習に取り組んだ。 ・プロコングの永田大士さんに来校していただき、6年生に授業をしていただいた。自分を備えて努力することの大切さについて学んだ。 ・大久保長寿会と低学年児童が生活科の学習「昔の遊び」を通して、交流活動を行うことができた。 ・キャリア教育年間指導計画を夏季休業中に見直し、実施しながら修正を行うようにした。
	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICT機器の活用による興味・関心、意欲の伸長 ・国際化の進展に伴う外国語教育の充実	・デジタルTVやタブレット等の授業での日常的な活用を図り、目的を明確にした学習を進める。 ・ALTとの連携により英語への理解を図る。また、外部講師等の活用を図る。	3.0 3.2 3.0	・ICT支援員を活用して、積極的にタブレット学習に取り組んでいる学年もあるがあまり活用していない学年もある。児童アンケートの「タブレットを使った授業をしてくれますか」の項目では、「よくしてくれる」と回答した児童が減少した。(R3:24%⇒R4:16%)学年により活用に温度差があるので全学年が今後も積極的にタブレットを活用できるようにしていきたい。 ・11月から3年生以上は家庭に持ち帰ることができるようになったので、タブレットの持ち帰り学習について具体的にどのように行うか検討してきたい。 ・ALT訪問時には、計画的に外国語や外国語活動の授業を行うことができた。 ・11/29に5・6年生の国際交流学習を行い、国際交流員のギャロウェイさんがイギリスの国の伝統や文化についてクイズを交えてお話をいただいた。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実				
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・OJT、メンター機能を活用した職員間の対話を重視 ・働き方改革推進プランによる具体的取組の推進と保護者への理解	・メンター・チーム意識の醸成と全職員が研修等において学ぼうとする姿勢を評価していく。 ・コンプライアンス研修等により法令順守等への意識の継続を図る。 ・本校における取組(勤務時間、業務分担、開校・施設、電話連絡、個人面談等)を保護者に周知し実行する。	3.5 3.6 3.45	・夏季職員研修でミニ研修(OJT研修)を行い、教職員相互の学び合いを通して資質向上を図った。 ・「不祥事防止のための東小学校校内ルール」を作成し、先生方に周知徹底を行った。 ・保護者に「児童生徒へのわいせつ行為等を防止するために」の文書を配付し、教職員による児童生徒徒行暴力等の防止に関する周知徹底を図った。 ・県教育委員会のコンプライアンス研修担当者に講師を依頼し、本校でコンプライアンス研修を行った。本県の事例を基に未然に防ぐための対策や事後対策等について具体的に考えることができた。 ・年度当初の学校説明会資料や安心メール等で登校時刻や留守番電話、放課後の電話対応時間等について保護者に周知した。保護者も働き方改革への理解をいただいている。
	安全、安心な教育環境の整備・充実 ・危機管理マニュアルの見直しと研修、非常時訓練の充実 ・事故等の防止をめざした保護者、地域との連携	・安全点検の継続実施の他、交通安全、各種避難訓練を計画的に行う。 ・適時の徹底した安全指導と保護者、地域連携による児童の事故防止に努める。 ・保護者相談等を活用しアレルギー対応ミス0に努める。	3.6 3.6 3.5 3.7	・毎月1日に安全点検を実施し、修理が必要な箇所は定期的に修理を行うことができた。 ・危機管理マニュアルの見直しを行い、夏季研修にて全職員で共通理解をした。 ・交通安全教室や不審者対策避難訓練及び火災、地震・津波避難訓練等学校安全への取組を計画的に行った。訓練等を通して児童自身が自分の身を守る意識を高めることができた。 ・避難訓練(風水害)6月実施し、保護者と協力し児童の引渡し訓練を行った。計画通りに、スムーズに児童の引渡しできた。 ・第1回東っ子育成協議会において、地域の方や保護者に通学路危険箇所の情報提供をお願いしたり、地域での児童の様子について情報をいただいたりして、学校と地域が協力して児童の安全を守る取組を行った。町建設課の協力で11月までに9割ほど改善が図られた。 ・東地区民生児童委員民生委員連絡協議会を7/7(木)と12/6(火)の2回実施した。民生児童委員及び民生委員との連絡協議会を行うことで地域の児童の実態を把握できた。 ・年度当初にアレルギー調査を実施し、該当児童については給食主任を中心に毎日献立をチェックし、該当児童一人一人に確実に対応できている。
	文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進	・「早寝・早起き・朝ごはん」メディア使用の約束を、学校保健委員会・学級懇談等の活用により習慣付けを図る。 ・基礎体力の向上 ・健康増進意識の高揚(う歯治療率80%以上)	・東っ子パワーストレッチタイムの設定、及び体育科学習カードを活用することで基礎体力の向上を図る。 ・発達段階に応じた就寝時間、メディアとの接し方、う歯治療について保護者に提示し理解を促す。	3.0 3.1 3.2
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進				